

## レポートにまとめる(2)

2010年7月19日

これまでの2回の課題および最後のプレゼンをもとに、ひとつのレポートとしてまとめる。  
今回のレポートも、前回のものと同様に概ね以下の部分から構成される。

1. 内容の簡単な要約  
最初に自分の論じる「疑問」とそれに対する(一応の)「答え」を簡潔に説明する。1段落程度。
2. 導入  
自分がレポートで取り組む「疑問」を詳しく提示する。ビデオとの関連、自分がなぜその「疑問」をもつに至ったかなどを説明する。
3. 議論  
参考文献を援用しながら、自分の答えにたどりつくよう議論を展開していく。重要なことは、あなたの答えにたどりつく道筋を一步一步示すこと。論の進め方に飛躍がなければ、あなたの答えは一定の説得力を持つ。
4. 結論  
もう一度、「疑問」と(一応の)「答え」を簡潔に説明する。また、今回調べることができなかった点について、「今後の課題」として簡単に言及する。2段落程度。
5. 参考文献リスト  
参考文献リストの書き方については『国際学ブック』参照。

## 注意

- この構成を無視しているものはレポートとはみなさない。
- 分量は A4用紙で3枚を超え(=1文字でも4枚目にかかるということ)、5枚を超えないこと。
- 表紙は不要。最初のページに、科目名、教員名、学籍番号・氏名、提出年月日を記載すること。
- 印刷したものを提出する。締切は 8月15日(日)の23時59分。メールで送信すること。1日たっても返信がない場合は届いていない可能性が高いので、再送すること。
- フォーマットは私のウェブサイトからダウンロードすること。  
<http://www1.meijigakuin.ac.jp/~iwamura/> (国際学部ウェブサイトの「教員紹介」にもリンクあり)
- 誤字脱字にくれぐれも注意。
- 添削して秋学期に返却する。
- レポート(1)の時に皆で考えた以下の注意点に、特に気をつけること。
  - ① 自分の意見や主張を表明するのに、「~と思う」「~と感じる」という表現を用いない
  - ② 「でも」「ちゃんと」などの口語表現を用いない。
  - ③ 「私は」を用いない。「私は今回〇〇に注目した」など。
  - ④ 主語と述語が正確に対応しない文章、異常に長い文章など、わかりにくい文章を避ける。
  - ⑤ 読点「,」「,」「,」を入れて、読みやすい文章にする。1行に最低ひとつは読点があると考えてよい。
  - ⑥ 他者の見解や統計数字を用いる際は、出典(誰のどの本における発言か、誰によってどのように計算されどこに発表された数字か)を明記する。